

敷地内農民—反対同盟を断固守りぬき 二期阻止を固く誓う

東西で反対同盟の集会開かる

六月十五日、東京・明治公園において「日米安保粉砕・三里塚二期工事阻止・関西新空港反対 6・15 全国総決起集会」が動労千葉、三里塚芝山連合空港反対同盟、北富士忍草母の会をはじめ、二二〇名が参加して開かれ、反動中曽根内閣の軍事大國化と政治の反動化に対し、三里塚を基軸として反撃に決起していくことを確認しました。

全国住民団体代表が
反対同盟を激励し、
二期阻止への決起を呼びかける

動労千葉二二〇名の隊列が、会場の明治公園に結集した闘う仲間の拍手を浴びて入場した後、東京実行委員会・青柳氏の司会で直ちに集会が始まりました。

連帯のアピールの中で、北富士の農民は、「三里塚・北富士の連帯の力を基軸に、全国人民の闘いを燃えあがらせよう」と呼びかけ、沖繩民権の会の古波津さんは、「沖繩では戦場さながらの演習が行われている。沖繩のようにならないために、三里塚二期を阻止しなければならぬ」と訴え、関西実行委員会の中島さんは、「軍事大國化・安保粉砕の一環として闘われている三里塚二期阻止—関西新空港反対を闘いつづけ、人民の未来と平和を切りひらこう」と決意表明しました。

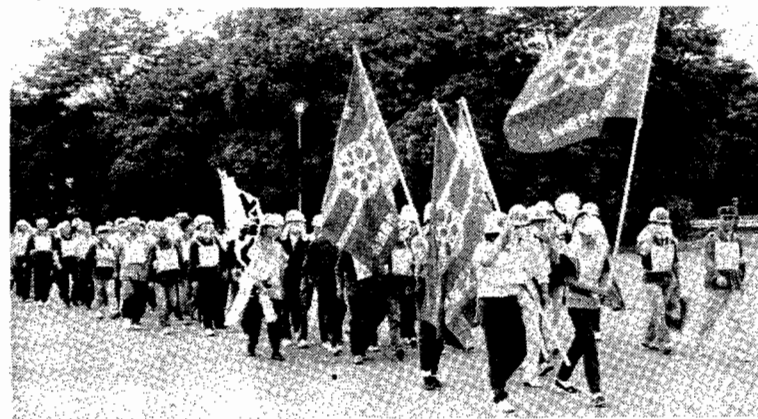
連帯のアピールの最後にたった動労千葉の関川委員長は、「現在の日本は中曽根内閣のもとで戦争への道歩んでおり、私達が三里塚軍事空港粉砕を訴えてきたことの正しさが証明された。6・7パイプライン粉砕、ゲリラ闘争爆発という事態に仰天した革マルや公団等が反対同盟の農民にイヤガラセ電話をかけているという。動労千葉が動労『本部』革マルの争闘戦を真正面から闘って勝利しぬいてきた教訓が、いま反対同盟と、全三里塚勢力に問われている。反対同盟を支え守りぬかねばならない。動労千葉は8・8を期してパイプライン反対、二期阻止の集会を千葉市で開き、10・9三里塚現地大集会の成功をかちとるべく全力を傾注する」との決意を表明しました。



三里塚を闘う各団体 2120 名が結集

三里塚で勝とう
— 浅田氏が基調提起 —

主催者を代表して基調報告にたった、東京実行委員会の浅田光輝代表世話人は「日本はアジアを支配する独自の動きを開始した。日本列島全島の沖繩化を許してはならない。現在、世界の帝國主義が軍拡・軍大化を競っている中で、いかに軍事大國化、政治の反動化と闘うのか。われわれは三里塚という砦をもっている。三里塚に勝つことにより、軍事大國化、政治の反動化に対決する不拔の陣地をつくらう。これから秋にかけての闘いに全力をあげよう」と提起し、全参加者の拍手でこれを確認しました。



拍手に迎えられ動労千葉 120 名の隊列で入場

つづいて万雷の拍手の中で壇上につたった、反対同盟の北原事務局長は、「現地では二期阻止にむけ体制を固めている。『一坪再共有化』とは農地を売ることに他ならない。農地なくして農民闘争はない。これまでも百六回の空港粉砕のゲリラ闘争があった。権力や革マルの今回の異常なまでの反動的キャンペーンは、『二期』が粉砕されることへの恐怖を示している。三里塚を闘う人々は全国におり、空港建設を許さないという人がいる限り『二期』は必ず阻止する。戦争への道、軍拡への道、中曽根を誰が阻止するのか。ここに集まっている人々が阻止しなければならぬ。三里塚は全国の反核・住民闘争の砦として闘う」と力強く決意を表明しました。

最後に、反対同盟の敷地内農民を代表して市東さん、婦人行動隊の郡司さんより、それぞれ「農地死守・実力闘争の路線を堅持して闘い抜く」との決意表明を受け、「一坪再共有化反対」の特別決議を全体の拍手で確認した後、清水谷公園までデモ行進し、三里塚二期阻止を市民にアピールし、成功裡に闘争を終了しました。

野球大会 準決勝・決勝戦の日程決まる
日時 六月二七日（月） 九時試合開始
場所 更科球場